



1. 新しい年のはじめに思う
2. 暖冬と公害
3. サービスということ

1. “元日や冥途の旅の一里塚”なる名句がある。人生のある面を表現している。しかし、自然を相手にしているわれわれ土木の技術屋にとって、この心境に到達するにはまだまだほど遠くてもよいのではないだろうか。

偉大なる土木事業を一つ一つ遂行してゆくには、多くの歳月がかかる。だからわれわれは、やはり新しい年を迎えるに当って、一年の計画を正月に求める方がいきた世界に住む心持ちがする。現実的でもそこに活気があれば次第に展開してアイデアを生み、さらにビジョンがつくられる。苦しかった過去の成功や失敗は、その一つ一つがみんなわれわれの栄養であり糧である。これらをむだなく消化してゆくことはやさしいようではなかなかむずかしい。

新年に当って、まず技術屋の持つアイデアには実現の可能性があるし、われわれがえがくビジョンには根拠があることに絶対の自信を持ちたいものである。 [J]

2. 大都市とその周辺では、冬が年々暖かくなってきているという。たとえば東京の場合、都心部と郡部では4~5°Cの差が見られる。これは海とか地形といった自然の環境の影響もあるが、家庭、会社等の暖房や工場排煙等による外気の温度上昇、また煤煙や排気ガス等が空中に大きな保温のためのドームを形成するという人工的な要素による影響も大きい。これらのガスやほこりは、一方ではスモッグのもととなり、種々の公害を引き起こしている。冬の寒さがやわらぐのは結構なことであるが、その原因となるものがその恩恵よりはるかに大きい害をもたらすのであってはたまらない。現在のままで放置すれば、まに日本全国がスモッグに包まれた不気味な暖かい冬を迎えるという状態にならないとも限らない。それよりも凍りついた冬の夜の星空を眺めて、身が引き締まるような寒さを味わった方が人間幸せだといえるだろう。公害に悩む各地で公害研究所とか公害防止事業団などが設立され、公害を断ち切るための試みがなされるようになり、また政府でも公害対策に真剣に取り組んで一日も早く公害対策基本法を作ることであり、これらの今後に期待したい。 [S]

3. ヨーロッパから羽田に帰ってくると一種の安堵と満足感を覚えるのであるが、旅券、税関および通貨交換の事務がごたごたと続いて、出迎えの人達と挨拶を交わすことができるまでに小一時間はかかってしまう。ヨーロッパの各空港では、旅券はいちべつしてパンとスタンプを押してO.K.、税関は“Have you anything to request?”と聞くので、反射的に（もっていようがないが）“No”といえればO.K.、換金は電動計算機でザラザラと金をくれるという仕組みで、ものの10分もかからないで外に出ることができる。日本ではいちいち控えの書類を取り、ソロバンで計算して二人でチェックしあうというように慎重な事務なので、このように時間がかかるのであるが、飛行機で旅行し慣れている欧米人にはモタモタした印象を与えるのではないか。

成田新東京国際空港の建設基本計画が41年12月に公団に提示され、1060haと面積において羽田の3倍になる。施設の拡充の喜ばしいニュースとともについ思い出した。 [C]

本欄の執筆分担者が本号から入れ変わります。昨年7月号から12月号までの執筆担当者は下記のとおりであります。新執筆者にご期待下さい。

- J 増岡康治（建設省関東地建企画室長）
- S 堺幸七（建設技術研究所）
- C 服部昌太郎（中央大学助教授）
- E 河村忠男（土木学会事務局編集課）

[編集部]